

— すべてのステークホルダーから信頼され支持される企業へ —

ADMIRE COMPANY

コストと運用効率に優れた クラウド型のセキュアなインターネット接続を 実現する方法とは！

2018年11月22日

ネットワンシステムズ株式会社

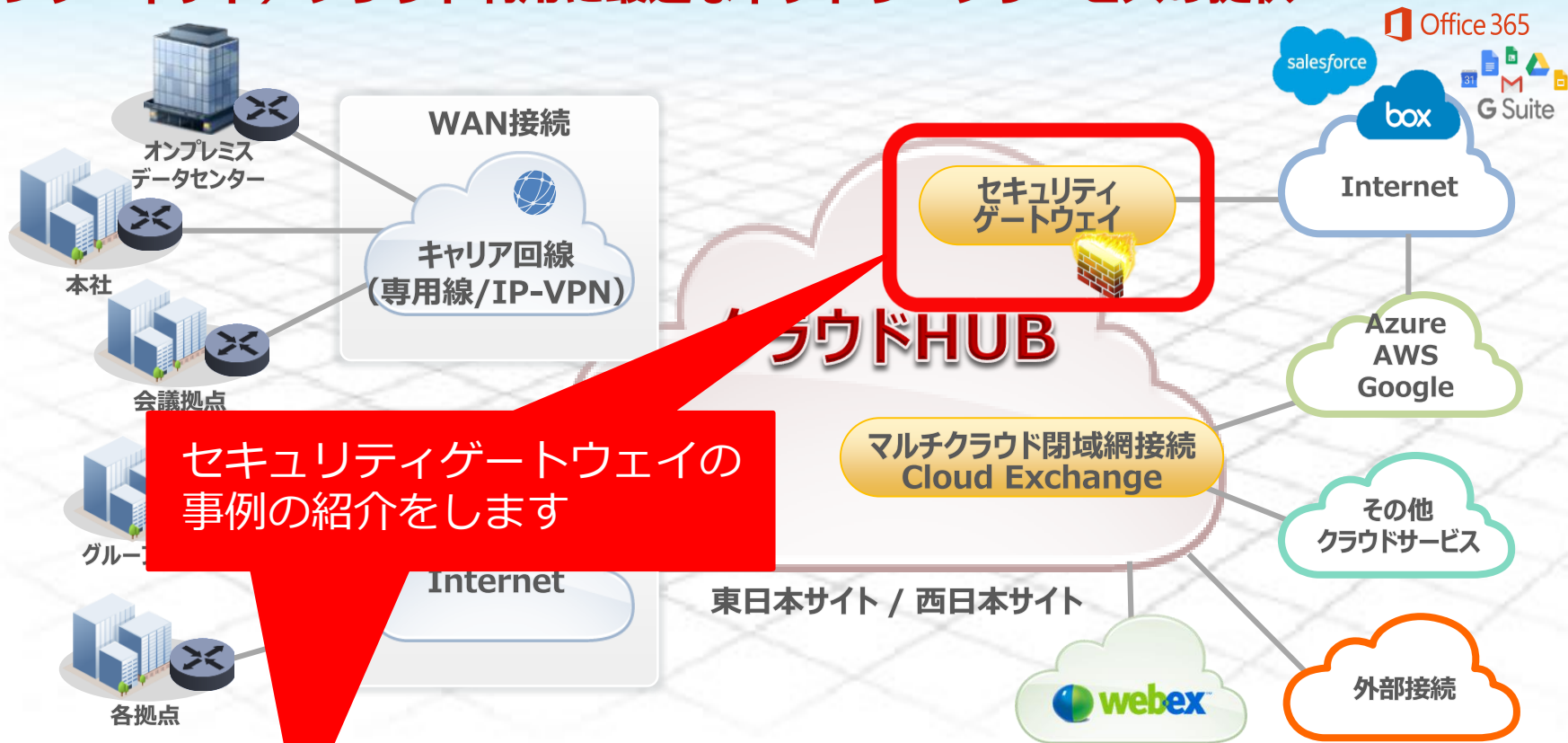
東日本第1事業本部 第2営業部

坂部 浩樹



net one ネットワンが考える最適なマルチクラウド接続

インターネット/クラウド利用に最適なネットワークサービスの提供



セキュリティゲートウェイの事例の紹介をします

POINT!

SD-WANによるローカルブレイクアウト

POINT!

インターネット接続・マルチクラウド接続・外部接続機能のシフト

POINT!

自社資産を維持・管理するコストからの解放

事例の紹介

背景と要求事項

クラウド利用の拡大に伴い、
それに耐えるインターネット接続基盤を安価に構築したい

- ✓ 老朽化対応のために**アウトバンド専用**のインターネット接続基盤のリニューアルをしたい
- ✓ 新プロキシは次の2つ種類必要
 - ①ホワイトリスト型のSaaS接続用
 - ②ブラックリスト型のインターネット接続用
- ✓ 本番と災対は**物理的に異なる環境**とすること
- ✓ インターネット・SaaSへの通信量の増大化に柔軟できること

パブリッククラウドのメリットを最大限活用した
“セキュリティゲートウェイ”を構築

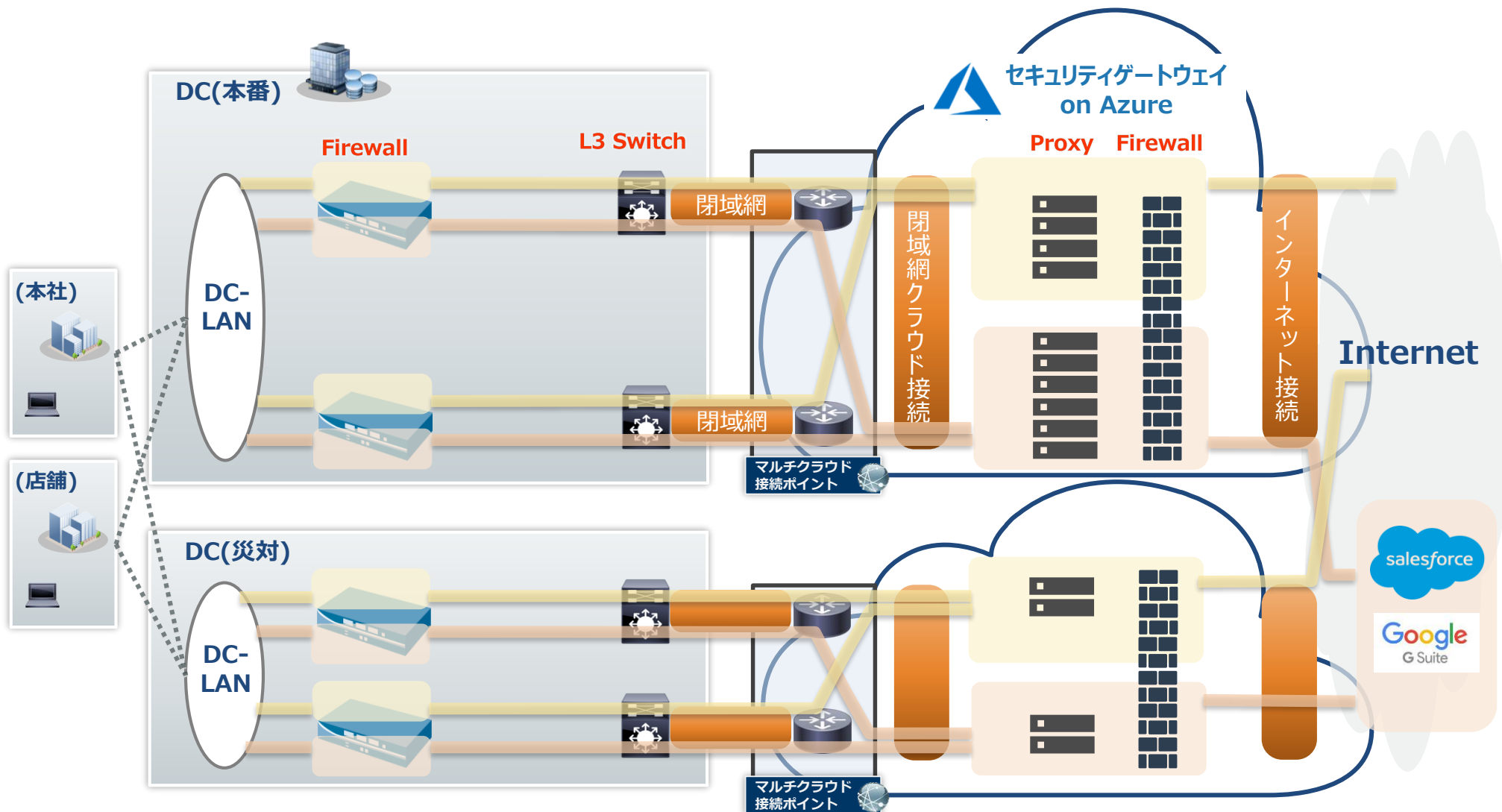
📍 主な提供機能

“セキュリティゲートウェイ”=クラウド型プロキシ機能

機能	機能
URLフィルター	ホホワイトリスト型、ブラックリスト型に対応
SSL復号機能	URL単位にSSL通信を復号化して制御可能 復号化後のログ保存可能 ※証明書はお客様準備
テナントの利用制限機能	個人契約テナントなどの自社テナント以外のアクセスを禁止する機能 (G Suite, Office365)
POST制御機能	SNSなどに対する書き込みを制御可能
送信元IPアドレスの固定	専用のグローバルIPアドレスを固定で割り当て (SaaSアクセス時に送信元制御(識別)が可能)
多段プロキシ対応機能	上位プロキシへの転送が可能
ログ長期保存	クラウド上に長期のログを保管

ポイント

概要構成



ポイント

1 パブリッククラウドを活用し従量課金で提供する

2 リードタイムを短縮し短期間での開発

3 複数システムの接続基盤を統合

ポイント

1 パブリッククラウドを活用し従量課金で提供する

2 リードタイムを短縮し短期間での開発

3 複数システムの接続基盤を統合

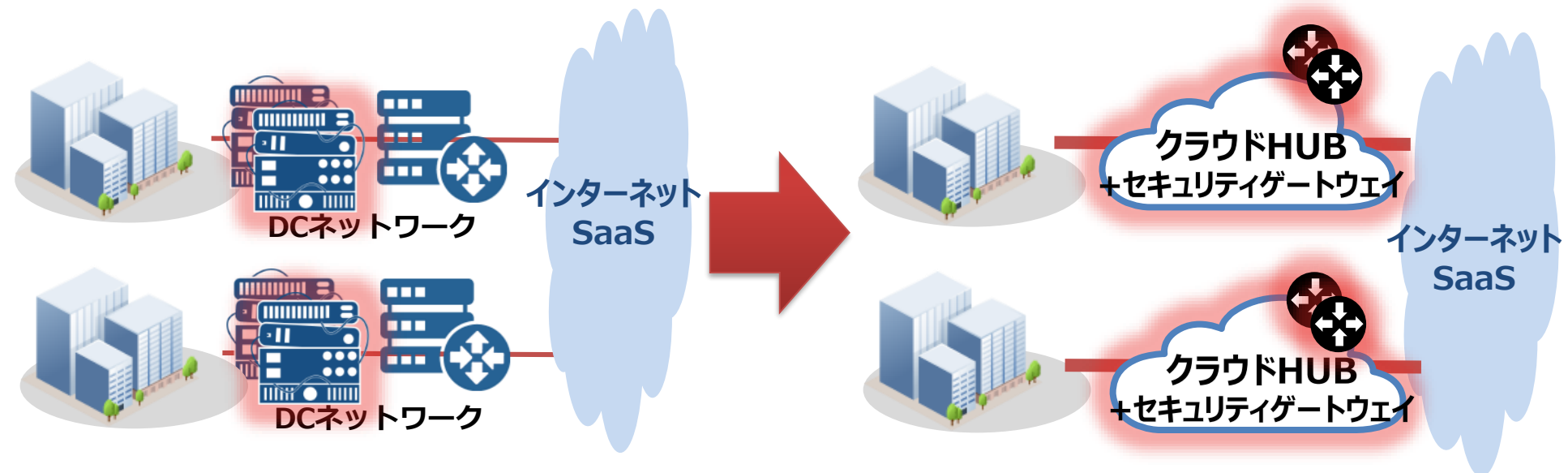
1 パブリッククラウドを活用し従量課金で提供する

オンプレ+ユーザ課金方式

- 使用するユーザ数に応じたサブスクリプションによる定額課金
- ピークを考慮したサイジングで構成し待ち受け
- 災対環境にも必要なリソースを配備

クラウド+通信量課金

- 通信量に応じた従量課金なので、トラフィックの少ない夜間や休日の費用軽減
- 時間・負荷に応じてリソースが可変する環境(スケールイン/アウト)
- 災対環境は最低限の費用で維持が可能



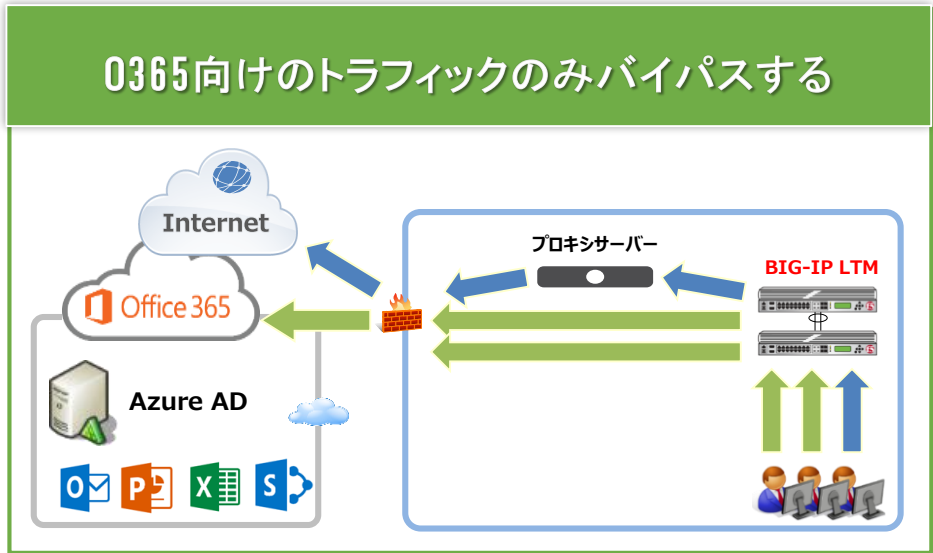
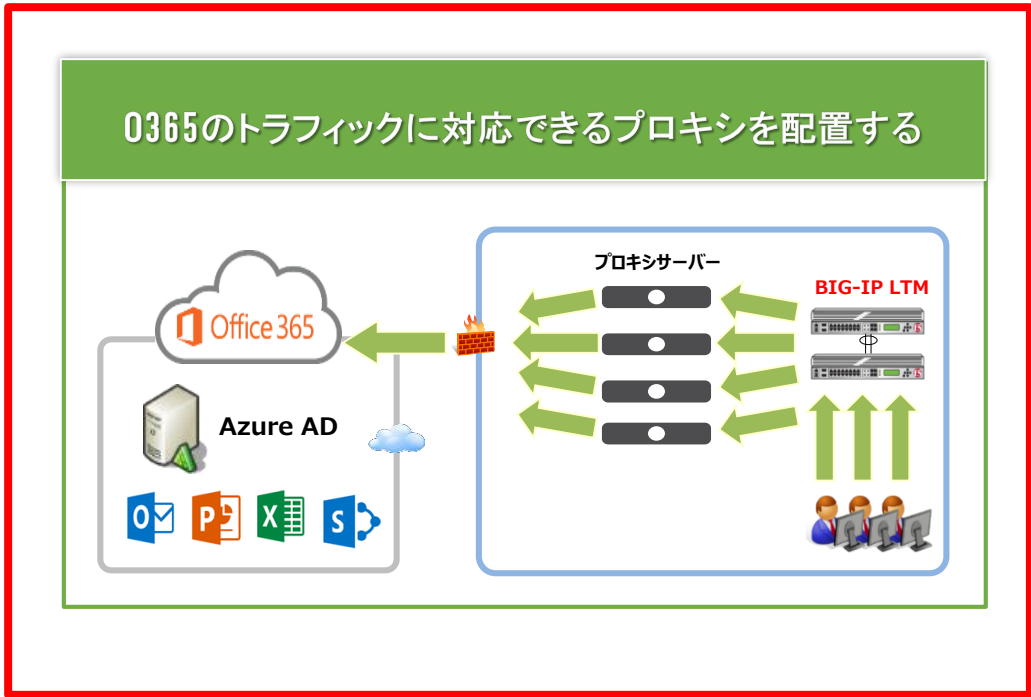
1 パブリッククラウドを活用し従量課金で提供する

東・西リージョン提供が可能な点でAzureを選びましたが、利用するパブリッククラウドはAWSやGCPであっても同等のサービスは提供可能であると思っています。
(ただし現時点の実績はありません。)

1 パブリッククラウドを活用し従量課金で提供する

Office365のプロキシ利用の方式として最適

- ・セッション数に対する課題にも柔軟に対応
 - プロキシに対するセッション負荷はプロキシをスケールさせることで解消
 - グローバルIPへのNAT/PATポイントもサービス範囲とすることで拡張/縮退が容易

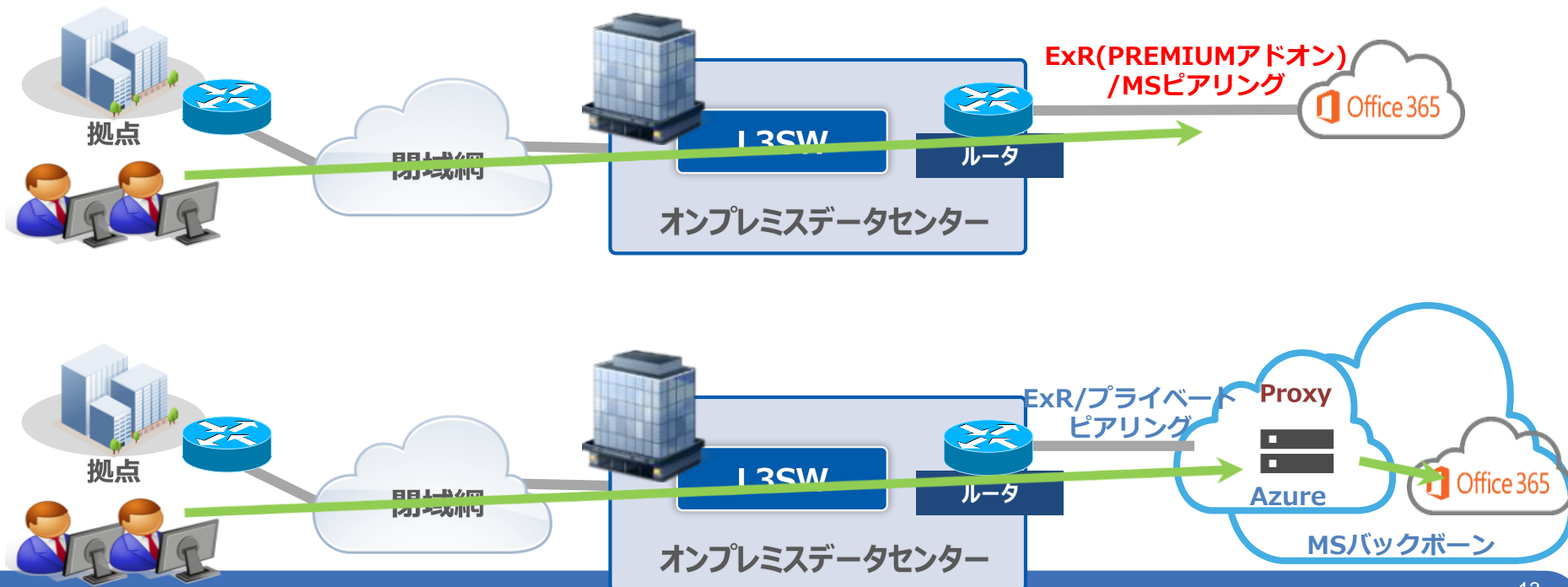


利用状況に応じてプロキシをスケールさせることでコスト削減を可能に

1 パブリッククラウドを活用し従量課金で提供する

Office365のプロキシ利用の方式として最適

- ExpressRouteのMSピアリングでO365を利用する際はPREMIUM アドオン付が必須であるが、本構成では不要
(vNet数や利用リージョンなど別制限で必要になる場合もあります)
- Azure利用時はMSバックボーンを利用するためインターネットに出ることなくO365に接続可能(認証他一部を除く)



📍 NOS提案のポイント

1 パブリッククラウドを活用し従量課金で提供する

2 リードタイムを短縮し短期間での開発

3 複数システムの接続基盤を統合

2 リードタイムを短縮し短期間での開発

パブリッククラウド利用

- ✓ 構築に際してのロケーションや時間の制約がない
- ✓ 納品までのリードタイムが不要
- ✓ 物理作業が不要で論理作業から開始可能

一般的なクラウド
利用のメリット

インターネットアクセスはAzureバックボーンを利用

- ✓ キャリア契約ではなく引き込みも不要
- ✓ Azureバックボーンを利用し広帯域を従量モデルで利用

📍 NOSの提案のポイント

1 パブリッククラウドを活用し従量課金で提供する

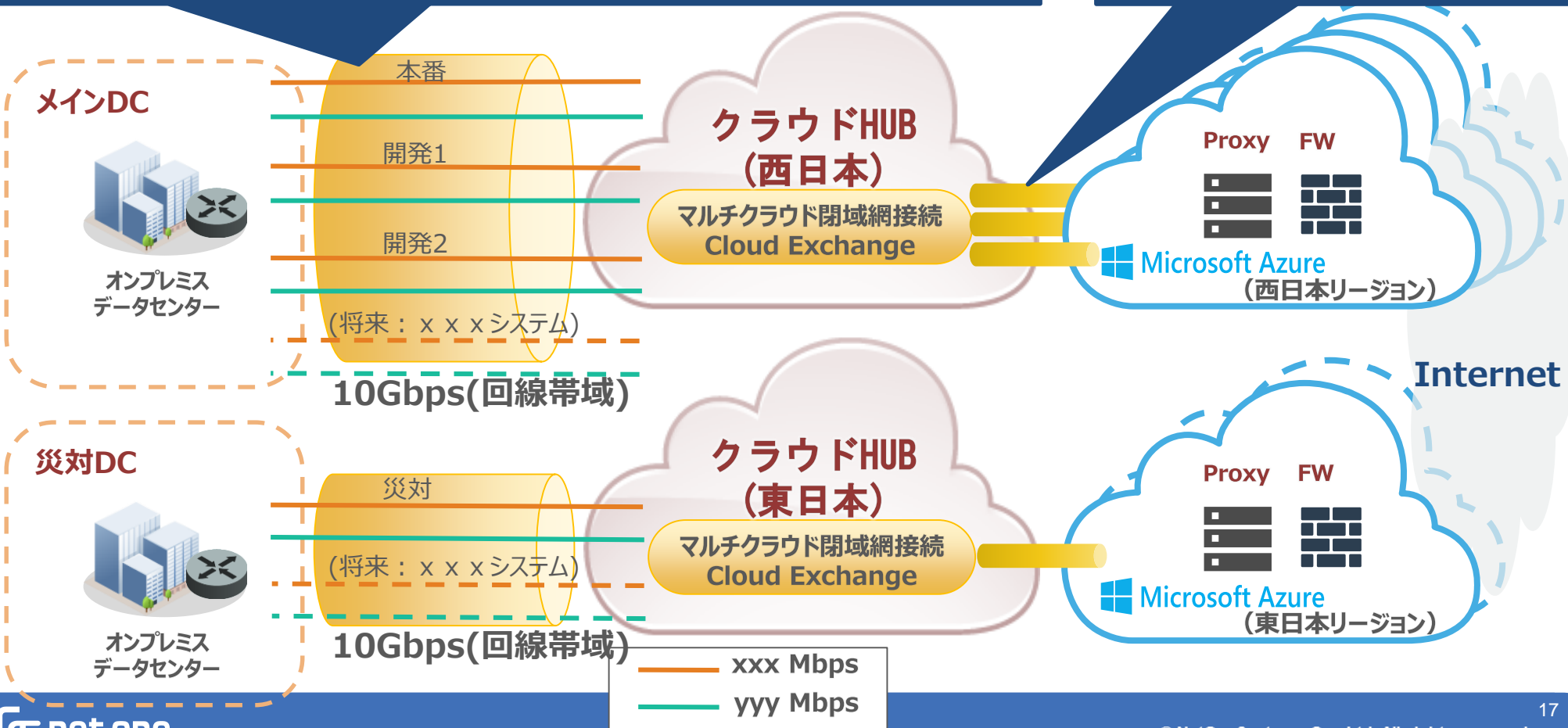
2 リードタイムを短縮し短期間での開発

3 複数システムの接続基盤を統合

3 複数システムの接続基盤を統合

オンプレDCと間の接続経路にクラウドHUBを利用したことで
単一のキャリア回線(物理)の論理分割が可能
→回線数が減少し、回線コストを低減可能

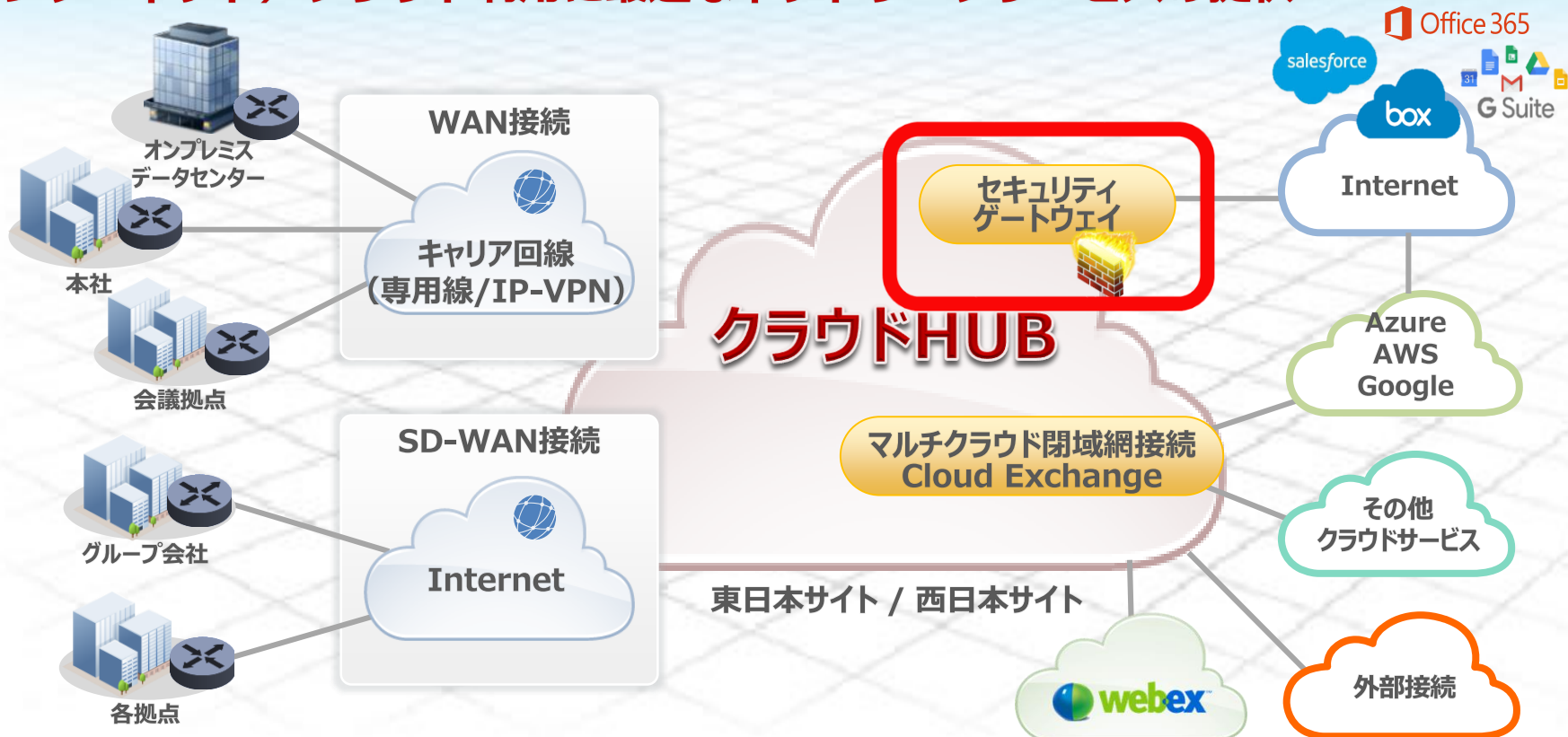
論理分割した通信を
クラウドの各面に閉域接続



事例を踏まえたエンハンス

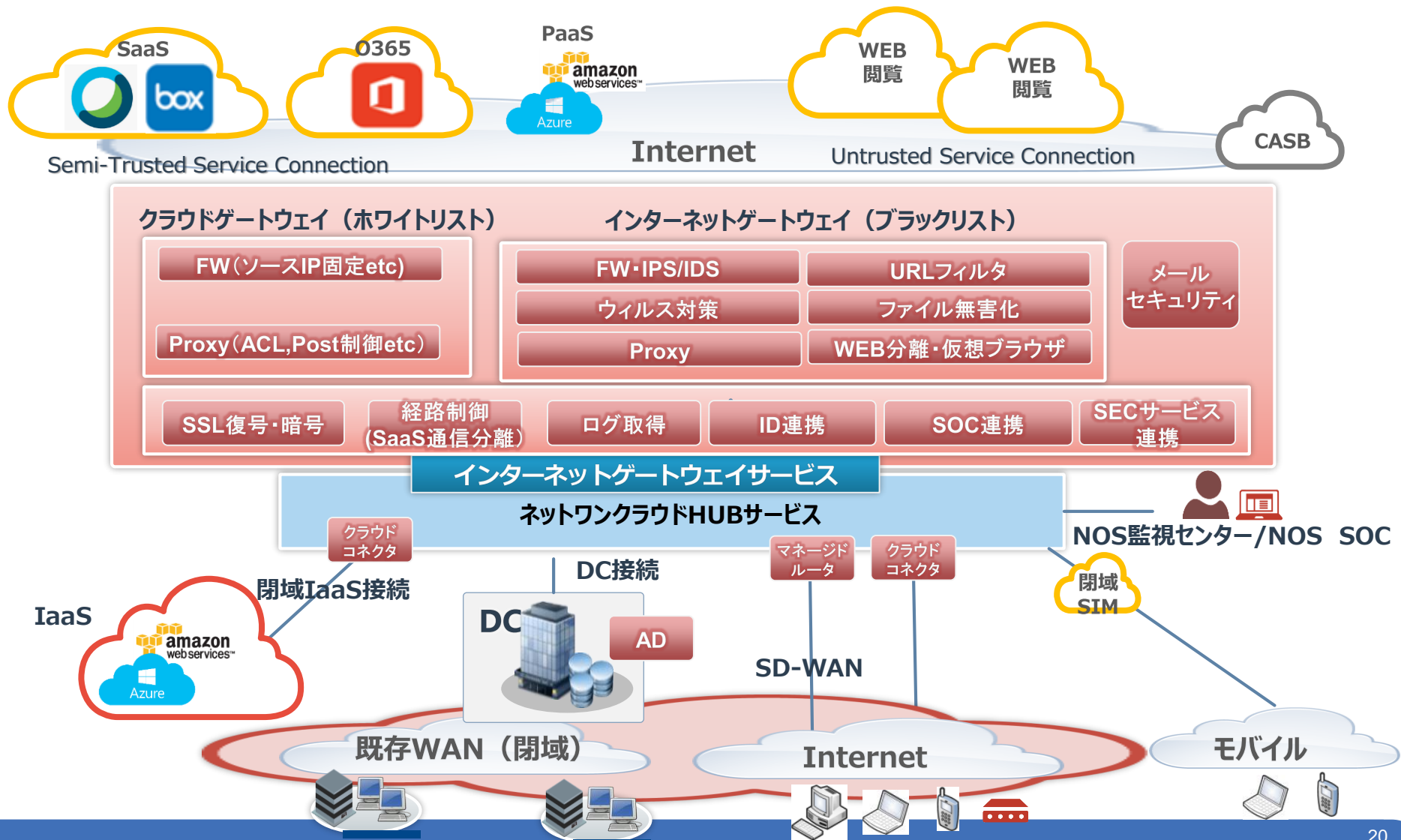
net one ネットワンが考える最適なマルチクラウド接続

インターネット/クラウド利用に最適なネットワークサービスの提供



「クラウド・インターネット接続」を従来型DCから分離することで
迅速性と拡張性、運用費用の削減を両立させる

ネットワークの考える将来のセキュリティゲートウェイ



セキュリティゲートウェイとしてのエンハンス

様々なアクセス方式への対応

セキュリティ機能の拡充

🔒 セキュリティゲートウェイとしてのエンハンス

様々なアクセス方式への対応

SD-WANサービス
との組合せ

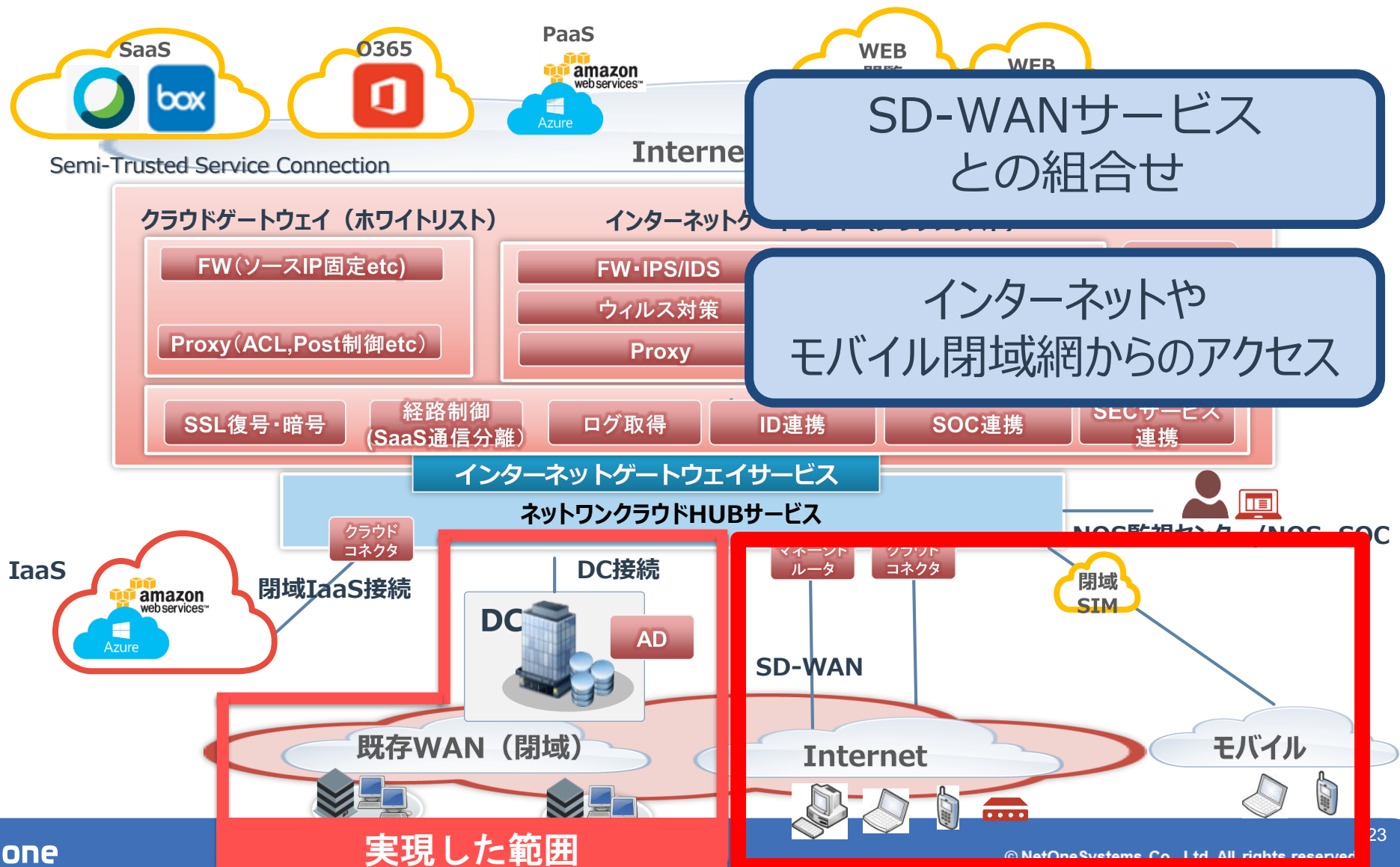
インターネットや
モバイル閉域網からのアクセス

セキュリティ機能の拡充

セキュリティ運用サービス
との組合せ

インターネット接続に関わる
セキュリティ機能の拡充

ネットワークの考える将来のセキュリティゲートウェイ



🔒 セキュリティゲートウェイとしてのエンハンス

様々なアクセス方式への対応

SD-WANサービス
との組合せ

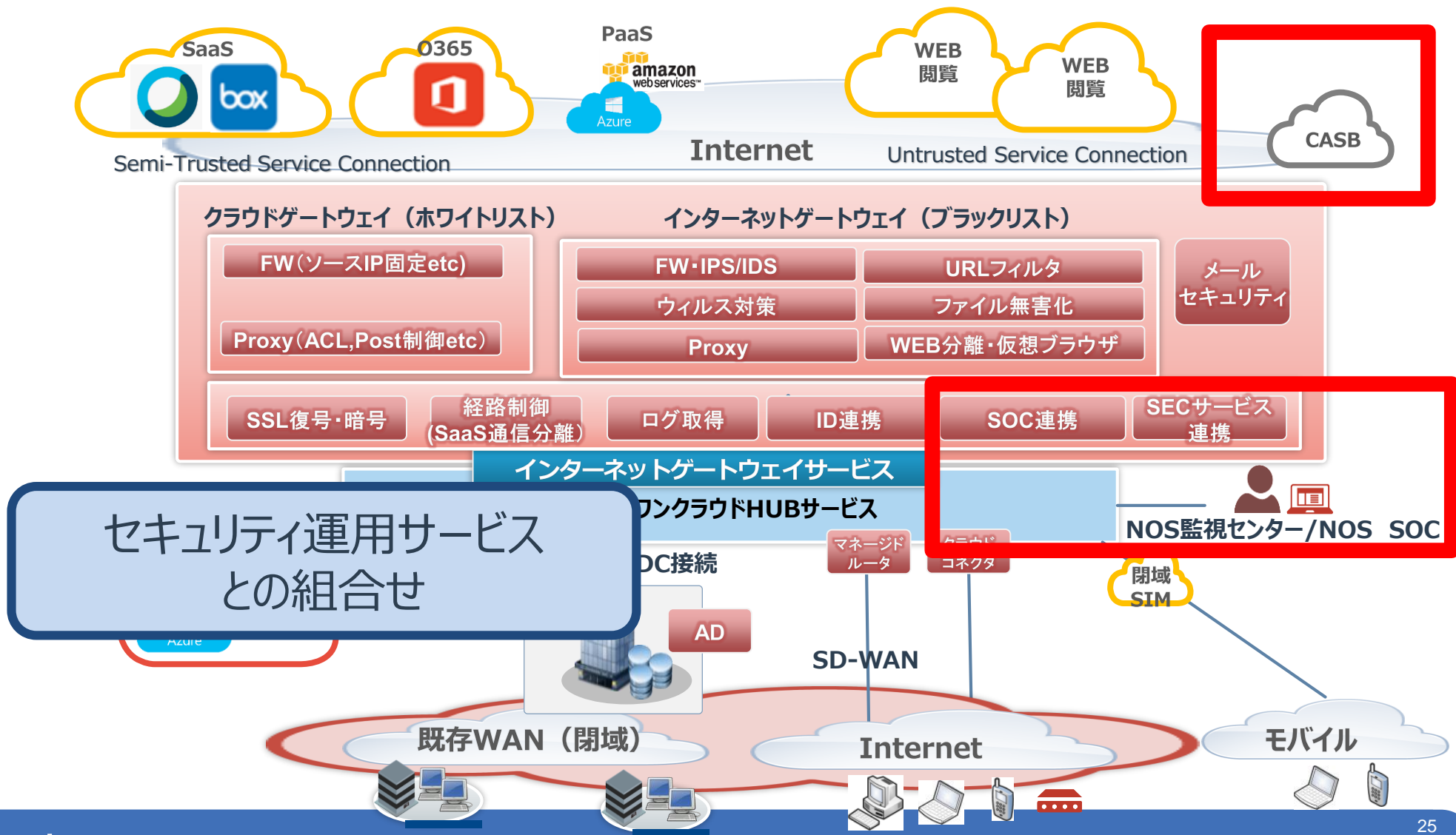
インターネットアクセス
モバイル閉域網からのアクセス

セキュリティ機能の拡充

セキュリティ運用サービス
との組合せ

インターネット接続に関わる
セキュリティ機能の拡充

ネットワークの考える将来のセキュリティゲートウェイ



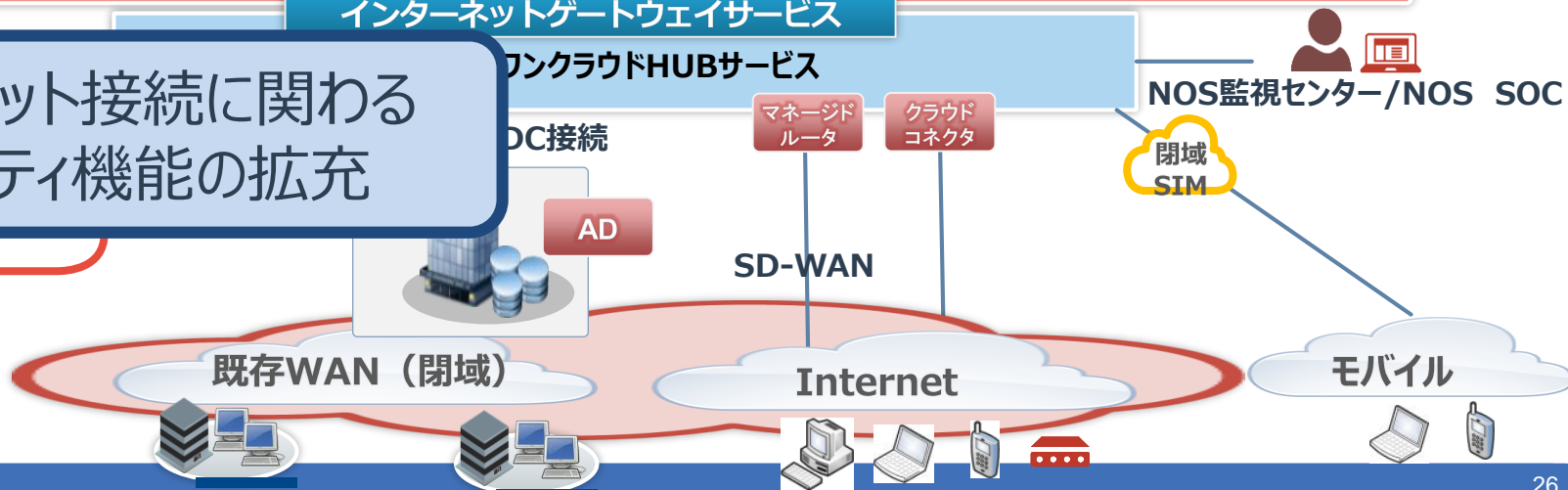
ネットワークの考える将来のセキュリティゲートウェイ



選択できる
機能として拡充



インターネット接続に関わる
セキュリティ機能の拡充



セキュリティゲートウェイは、

■コスト最適化とセキュリティ機能の両立

- パブリッククラウドを活用し従量課金モデルで提供
- 災対など平時は利用しない環境に対するコストの見直し
- スモールスタートで段階的に拡大(縮小)
- Office365のプロキシ経由の方式として最適

トラフィック増大・セキュリティリスクなど
クラウドシフトがもたらす課題は、
ネットワークに何でもご相談ください。

つなく ∟ むすぶ ∟ かわる



net one